

行動計画フォローアップ会合で示された主な取組と課題・要望について (詳細版)

行動計画フォローアップ会合において、出席した中小企業・小規模事業者及び支援機関から示された主な取組や提起された主な課題、要望について、行動計画における4つの行動、「施策の効果的な実行に向けて」、行動計画にはない重要課題(震災対応、消費税転嫁対策)に分けて、それぞれ整理。

行動1 : 地域に眠るリソースを最大限に活用・結集・ブランド化する

行動2 : 中小企業の新陳代謝を活発にする

行動3 : 下請構造から脱却し、自ら積極的に成長分野へ参入する

行動4 : 海外に打って出る

効果的な実行 : 中小企業・小規模事業者施策の効果的な実行に向けて

他の重要課題

- 震災対応
- 消費税転嫁対策

行動1 地域リソースの活用に関する主な取組や課題・要望

1. 中小企業・小規模事業者の取組や課題・要望

行動計画項目	中小企業・小規模事業者の取組	中小企業・小規模事業者の抱えている課題や要望
地域内で連携して、地域資源を活用・発信していく。	自動車部品は品質基準が厳しいので国内生産している。地元の雇用創出等のために、オール宮城のものづくりを目指している。(白石市)	大型量販店の駅前出店があるところ、商店街の抱えている課題として組合加入が減っている。加入条例があると、ありがたい。(旭川市)
	旅館業は零細企業ばかり。一社ではできることに限界があるため、地域全体で観光振興に取り組んでいきたい。(鳥取市)	沿岸地域の商品を内陸の道の駅で扱ってもらおうと、商談会を開催するなど活動している。道の駅は本来、地場の商品を紹介する所であるため、道の駅同士でネットワーク化ができていないのが問題。(遠野市)
	近隣にショッピングモールが出店されると聞き、戦々恐々としていたが、現在は共存共栄することに切り替え、それについて大型量販店と話し合いをするところであり、それも復興の一助になればと思う。(いわき市)	バイパス沿いに大型店の出店が相次ぎ、中心市街地の空洞化が止まらない。立地の支援策や誘導策が必要。(遠野市)
	おやき業界が連携して、信州おやき協議会ができ、ブランド化が進むことで知名度が高まり、販売が拡大した。ただ、市場拡大によって、機械化により大量生産を行う事業者が参入したことで、手作りで生産をしている事業者の販路が奪われ、二極化が進んだ。(長野市)	伝統産業が対外的にPRしやすい補助金制度を作って欲しい。(高岡市)
	地域の7つの農家で連携して、農業の6次産業化を実践している。みかん加工が売上の7割。加工することで年中売れるという強みがあるので、伸ばしていきたい。(和歌山市)	全国から修行に来ているが、仕事がないため独立ができない。販路拡大が一番大きな問題。職人は売ることが苦手なので、販路拡大の支援を行って欲しい。(高岡市)
	温泉地だが、温泉に入って帰るだけでは小さな宿は生き残れない。機能浴としてのPRや、周辺の観光資源も含めて地域活性化に繋げたい。(大分市)	新しい取引先を探したいが情報が入ってこない。マッチング・情報提供をお願いしたい。(白石市)
		郊外に大型店が出店してきたこと、駅ビルの再開発に伴い、感覚として、通行量は10年前の半分以下になってしまっている。(鹿児島市)

積極的に新たな地域資源を 発掘・開発していく。	県内で唯一のベンチャーキャピタルで、ベンチャー支援や企業の再生支援、地域資源を活用した新事業創出の支援等を行っている。温泉熱を活用したエネルギーファンドや農林漁業6次化ファンドなども組成し、地域活性化に向けた取組を行っている。(大分市)	
	高速道路が開通し、従来の国道9号線の交通量が半減したため、近辺の店の売上が3～4割減少したが、琴浦町の「鳴り石海岸」をパワースポットとして発信したところ、今では琴浦町を代表する観光地となった。(鳥取市)	
	来年4月からJR釜石線でSLが定期運行を開始することになった。商店街や中小企業と連携して、地域資源を活用した新たな観光振興に取り組んで行きたい。(遠野市)	
	子供を連れてきながら働ける体制を自前で作り、小さな子供がいる母親を優先的に雇った。(和歌山市)	従業員は全員女性であり、女性が働きやすい環境を構築するため、地域雇用としている。女性が仕事を続ける上で、結婚、出産、子育て、介護が大きな課題となっている。(長野市)
	育児や介護は依然女性の大きな負担。当社では女性パートも有給休暇の全日消化、勤務時間も柔軟に対応。今年出産したパートが雇用保険から育児休暇手当をもらい、休暇中。この手当の存在を知らない会社・女性が多いのが残念。(豊橋市)	専門学校でせっかく技術を学んでも、地元には仕事がないのが現状。また、個々の店で人を育成する余裕もない。若者を育てるための支援があるとよい。(室蘭市)
	有資格者の人材不足から、閉校した土木系の学校の先生や、有資格者を社員にして、「測量塾」のようなものを開きたいと考えており、商業会議所等からアドバイスを受けながら準備を進めている。また、測量以外でも学びのメニューを増やせば、若年層の就職の幅も広がっていくのではと考えている。(室蘭市)	働く女性への支援について、三交代制勤務が多い業種だと、夜間保育への要望も多い。また、自前で保育所を持てる企業も多くはない。例えば、企業内に保育所を設置する際、支援などがあるとよいと思う。(室蘭市)
		社会保険料の負担が苦しい。これでは雇用も進まない。社会保障ができず、人材が集まらない企業も多い。(室蘭市)
		昨年、障害者の就労支援でNPO法人を立ち上げた。今後は障害者を雇用してカフェをオープンしたいと考えている。資金ゼロから頑張っているが、ぜひ支援してほしい。(和歌山市)

地域の雇用、とりわけ女性・若者を中心に積極的に雇用していく。

	男女共同参画、ワークライフバランス、ポジティブアクション等の啓発活動をもっと活発に行ってほしい。地元こだわって会社を存続させるためには、人材確保、特に女性の雇用が重要。まだまだ男女の役割分担の意識が根強いので、女性が働き続けることができるよう、マインド等のソフト面の整備が重要。（遠野市）
	高校生等の採用を控える企業が増え、また中小企業における若者の採用難、高齢化など、遠野市には多くの課題が共存している。（遠野市）
	今まで一番大変だったのは、商品を販売するにあたり人材が肝心になるが、旭川市内の若者の雇用が問題になっている。当社で落ち着いているのは、関西・関東からのUターン組が多い。市内の新卒は札幌、関東に行ってしまう。（旭川市）
	大学と中小企業のミスマッチが課題になっている。中小企業が将来の幹部候補になるような採用を考えていても、その考えが大学側に伝わっておらず、学生を十分に集めることができていない。（遠野市）
	伝統産業を引き継いでくれる若者の育成が厳しい。1～2年では、即戦力は育たないし、長期で頑張ることができる若者も少ない。（鳥取市）
	もの作りの人材育成についても、もの作りの現場を知らない人が入ってきている。見学等で見ているのは体制の整ったきれいなところで、現場はもっと汗くさいところ。（旭川市）
	ハローワークや人脈を使って採用しようとしているが、良い人に巡り会えない。マッチング支援があれば嬉しい。（鳥取市）
	できれば小さい頃から専門的な仕事に就きたいと考える小中学生向けの社会見学があればいい。前に中学生が見学に来た。中学生で実践に触れるのはいいことなので、積極的にしてほしい。（旭川市）
	新しい事業展開をする上で、生活者視点をもった女性社員の即戦力が重要になる。子育てや介護等で辞めなくてすむように、支援していくために、踏み込んだ施策をつくって頂きたい。（那覇市）

地域での需要を喚起・獲得し、地域経済の活性化に貢献する。	類似品が出回ることが多いが、そういったものが出現した際は差別化を行う必要があり、原材料の地元調達や信州大と連携した品種改良等に取り組んでいる。(長野市)	商店街は自己資金が少ないのが悩み。商売を営みながら一方でこういった取組をしていると、マンパワーが足りない。(豊橋市)
	餅米を使った和菓子を製造しているが、日本における端午の節句のような文化を継承していく役割も担う会社であると思っている。今後は超高齢社会に向けて、喉に詰まりにくい餅の開発などにも取り組んでいきたい。(高知市)	LED化については、まちづくり補助金に申請した。取り組みたい商店街振興組合はたくさんあると思うが、残りの1/3負担が難しいという声が多い。(大分市)
	イベントや祭りでの地域活性化だけでなく、地域で継続的に展開していけるような事業をいければよいと考えている。(鹿児島市)	
地域資源を活用・発信するため、起業・創業、新事業展開などを積極的に進める。	国からの補助金をもらい、商店街にセレクトショップをオープンした。高知市の良いものを集めて置くというコンセプトでやっている。(高知市)	愛媛らしさを出そうとしているところだが、資本・研究費がなく、なかなか開発が進まないのが問題。いろいろ助成制度はあるだろうが、小さな企業には使いにくいものが多いという実感。小さな企業が細かく使える制度があるとありがたい。研究費、開発費に資金が回らない状況なので、新規開拓の分野で分かりやすく使いやすい制度があるとありがたい。(今治市)
	生産したトマトを使い、半田にある中野酒造とトマトのカクテルを作ったが、農商工等連携事業として認定された。農商工等連携事業に認定されてよかったと思ったことは、社会的信頼を得られたこと。(豊橋市)	事業を行いたい施設がないという方や、誰かとコラボレーションして事業を行いたいと考えている方がいるため、インキュベーションセンターのような施設を身近なところに整備していただきたい。(白石市)
	旭川市の事業として、ネットを介した事業を行っているが、ネットを介して販売したい人は多く、反響が大きい。(旭川市)	企業を左右するのは経営者。経営者のリーダーとしての質の向上も、行動計画に入れたらよいと思う。(和歌山市)
	先輩企業からのアドバイスで、フーデックス等展示会に出れば販路が開拓しやすいことが分かった。翌年からは毎年出るようにしている。その他、毎年2~3回ほど展示会にでているが、いろいろな販路を開拓出来ている。その際は補助金をいただいている。(鹿児島市)	企業の経営を左右するのは、経営者の質。旭川にある中小企業大学校で勉強したことがあり大変役に立ったが、旭川まで通う時間を工面するのは大変。地方で出前セミナーのようなものがあれば良いと思う。(室蘭市)
	支援機関からアドバイスを聞いて、試作開発の補助金を頂戴し、機械の開発をすると共に、人材育成にも取り組んだ。これにより、雇用も生まれ、開発・人材育成・スキルアップ等の競争が生まれ、チャンスが来たと非常に期待している。(那覇市)	

空き店舗活用など商店街を活用した起業・創業を促す環境作りを進めて行く。	地域の空き家を探し、インターネットでの情報提供及び地元不動産業者と連携した物件紹介で、4年間で30件程度の創業に繋がった。(長野市)	今や成功事例にはなっているが、今後は町全体のマネジメントが課題であり、商売人だけでなく、まちづくりの人材が必要。(大分市)
		メイン通りはシャッター街化しているが、住宅街のため、店を開きたくても人が住んでいるため簡単にはできない。若手にビジネスチャンスを与える場所を作ってほしい。(室蘭市)

2. 支援機関の取組や課題・要望

行動計画項目	支援機関の取組	支援機関の抱えている課題や要望
地元の中小企業の成長を支援し、地域経済の活性化に貢献する。	資金繰りの相談や、経営改善計画の策定など、商工会には大変支援していただき、身内にも資金面で支援してもらった。そのおかげで厳しい時期を乗り越えた。(鳥取市)	金融円滑化法が終了し、中小企業の大半は売上の低下に苦しんでいる。経営改善の支援に力を入れているので、国にも引き続き支援をお願いしたい。(和歌山市)
	経営支援に力を入れ、月次巡回監査を関係機関に推進している。(鳥取市)	商工会として地元の魅力発信に努めているが、ソフト事業の立ち上がりは自力で行わないといけない現状にあるので、立ち上がり支援をお願いしたい。(白石市)
	地域のリソースに気づいていない事業者もあり、その地域では当たり前となっていることでも、世に広めて地域活性化のビジネスチャンスに繋げていきたいと思う。(長野市)	
	人材確保については、地元の高校や大学と連携して、学内での企業説明会等を実施している。(和歌山市)	
	経営支援に力を入れ、月次巡回監査を関係機関に推進している。中小企業白書によれば、中小企業の約7割は、日頃の経営相談を顧問税理士や会計士に行っているとのことで、税理士や会計士は、一番身近な存在であると思われる。また、認定支援機関は8割以上が税理士であり、税理士は社会的に期待をされているのではと思う。正しい会計知識が中小企業の武器になるよう、中小会計要領の啓蒙や、情報提供等を進めている。税と会計の専門家として、また認定支援機関としての想いと意識をもって、業務に取り組みたい。(鳥取市)	
	中小企業の経営者は、経営の勉強をしている人が少なく、問題。そこで、経営者の交流会をスタートさせ勉強や情報提供の機会をつくり、顧客以外にも広く参加いただいている。(大分市)	
支援機関が連携し地域の中小企業・小規模事業者を支援する。	地域の商店街と昨年から会議を行っており、空き店舗対策やまちづくり会社の設立・活用等について検討している。(那覇市)	事業者の販路拡大のため、県内27の信用金庫がそれぞれの顧客同士のマッチングを行っているが、東北地域に限られてしまうので関東・関西などの事業者とのマッチングが課題。(白石市)
	都心のバイヤーには地方になかなか来てもらえないので、大分県と連携し、商談会を東京で開催した。(大分市)	

支援機関自身の経営支援のスキルを磨く。	支援機関も多くの国の施策について、良く知らない現状である。情報収集し、勉強会に参加するなど、お客様に提案できるよう努めている。(那覇市)	個々の組織で支援のスキルを磨いていくのは厳しいため、地域の勉強会などを活用し、強化したい。(那覇市)
	経営指導員に対してコストパフォーマンスを考えることの重要性を伝えている。(高知市)	認定支援機関として経営改善計画の策定支援をしているが、金融機関単独では実施に限界がある。他と連携していきたい。(遠野市)
	ものづくりの支援チームを作った。客の事業を知るために大手メーカーのOBを3名採用して客のところへ行くことをしている。(今治市)	支援者と経営者が協力して一緒に動くことが大事である。今後は支援人材を充実させていくことが重要。人材育成には、資格の取得と経験を積むことが重要。経営者の本当のニーズをくみ取って、支援機関も一体となって成長していきたい。(高知市)
認定支援機関の存在や各種支援策を地域の中小企業・小規模事業者を紹介し、活用を促す。	国の補助金を得るのは申請の面で大変だったが、商工会議所の方に協力してもらい対応できた。(高知市)	
	町は資源循環型のまちづくりを目指して、観光等で外貨を稼いで町で循環させようと考えている。商工会も蔵王にある資源を有効に生かしたいと思っており、町で使える商品券が利用できる店を増やしている。商工会では農水省から助成金を活用して資源循環型の“蔵王爽清牛”というブランド牛を進めている。商工会では、商工会宮城県連からのビジネス支援小規模企業広域活性化事業という助成を活用し、地元農家が儲かるように取組を進めている。(白石市)	
地域において起業・創業を行う起業家を発掘する。	女性の創業を支援する空間とコミュニティーを作っている。また、創業補助金を有効に活用できるよう、女性の創業のための準備をお手伝いしている。(那覇市)	
	商工会においては創業や第2創業のためのセミナーを開催し、自社開発の申請支援や海外展開の支援などを行っている。(高知市)	
	金融機関は預金・貸付がメインだと思われがちだが、事業計画の策定までお手伝いしていたり、創業スクールを行って半年後にフォローアップ、個別の経営相談会など様々な取組を行っている。(高岡市)	
	いわて産学連携推進協議会を設立し、マッチングや事業化について助成を行っている。また、いわて未来づくり機構の事務局として、地域のリーダーとなる人材の育成を支援している。(遠野市)	

行動2

新陳代謝の促進に関する主な取組や課題・要望

1. 中小企業・小規模事業者の取組や課題・要望

行動計画項目	中小企業・小規模事業者の取組	中小企業・小規模事業者の抱えている課題や要望
自らの起業・創業の経験を次の人に伝えていく	代表が団塊の世代で、若い世代に承継する時期が来ている。若手社員にも業務の責任を持たせて、早い段階で技術者として1人前になってもらえるようにしている。(室蘭市)	事業をして数年経てば問題が出てくるので、事業した人の情報交換会などがあると思う。(室蘭市)
	縁もゆかりもない人間が継ぐという体験や苦労を、ぜひ次代に伝えていきたい。伝承も、地域の財産になると思う。(室蘭市)	
起業・創業直後の資金繰り難を克服するため、ビジネスの早期事業化を図る		既存の事業を強化しつつ、新事業を発掘することが大事だと思うが、できていない。使える補助金もなく、困っている。創業後の、成長ステージに応じた支援や相談体制があると良い。(鳥取市)
		起業時や、雇用時の支援メニューは多々あるように思うが、起業後、存続できるようなサポートがほしい。(室蘭市)
成長・発展のステージにおいては、社内雇用を増やすよう努力する	新陳代謝の取組として、新人を採用したところ、社内が活性化した。また、長期間働いてもらえるよう、年功序列賃金制度を導入した。(長野市)	新卒者を採用すると、新しい風が吹いて、会社の雰囲気が良くなる。今後も採用していきたいが、会社にとってリスクが大きい。何らかの支援があるとありがたい。(室蘭市)
業績が悪化した際には早めに相談することによって、経営資源の喪失を未然に防ぐ。	マインドが冷え込んでいると、あるはずの可能性も消えてしまう。マインドを引き出すには、他産業から人を引き抜き、古い慣習を取り払う必要がある。(遠野市)	
	「3代目が崩れる」のは、時代が刻一刻と変化していく中で、これまでのやり方を愚直に続けてしまうから。そうではなく、時代に合わせて事業体系を変えていくべきだと考えている。現在は10年前から6次産業を行っており、当事業に注力している。(鹿児島市)	

地域経済の活力の維持・向上に貢献するため、事業承継を積極的に進める。	古い体質が抜けず邪魔をしていくことがあるが、半ば強制的に改革を進めていくと、社内がきれいになるだけでなく売上等の数字にも表れてくるようになった。(高岡市)	最近のアンケートによれば、沖縄の中小企業の70%は後継者がいない。事業承継に係る税制についても、課題であるため、小規模事業者にとって魅力あるようにして頂きたい。(那覇市)
		6年前に事業を引継ぎ、2代目。事業承継税制は「従業員の8割保持」という条件が厳しすぎる。その他にも足かせが多すぎるので、改善してほしい。(和歌山市)
		商店街は後継者問題、空き店舗の再生といった課題を抱えており、個々の店舗がしっかり取り組むことで魅力のある商店街が形成される。(長野市)

2. 支援機関の取組や課題・要望

行動計画項目	支援機関の取組	支援機関の抱えている課題や要望
地元の中小企業の成長を支援し、地域経済の活性化に貢献する。(再掲)	創業するのはスタート地点であって、その後が大事であり、事業を継続させるためには税務や実務面に加えスピリットの部分が重要だということを、創業前に何回かの講義に分けて伝えている。(鹿児島市)	
	中小企業の情報化の促進を図るため、インキュベーションマネージャーを配置しセミナーを展開している。新規創業者の成長を促進し鹿児島市経済の活性化を図ることを目的に本年7月1日より、新規創業者等支援として鹿児島市から業務を受託した。(鹿児島市)	
支援機関が連携し地域の中小企業・小規模事業者を支援する。(再掲)		
支援機関自身の起業・創業支援や事業承継支援のスキルを磨く。(一部再掲)	新規開業については、担保・保証に頼れないため、金融機関は弱い部分。しかし、事業主が減っていく中で、日本政策金融公庫や信用保証協会などと連携し、前向きに取り組み始めた。(和歌山市)	
認定支援機関の存在や各種支援策を地域の中小企業・小規模事業者を紹介し、活用を促す。(再掲)		
地域において起業・創業を行う起業家や事業承継ニーズを発掘する。(一部再掲)	衰退ステージでは、致命傷を防ぐため、買収や早期の廃業を勧める場合もある。(長野市)	次世代経営者や成長分野のベンチャー企業を支援するために、投資ファンドである次世代創業支援ファンド及び新規融資商品として次世代創業支援ローンを創設。(いわき市)
	中小企業の新陳代謝について、創業・次世代経営者への支援として、それらの方々の幅広い知識・ノウハウの習得サポート等を目的とした次世代経営者クラブを創設。(いわき市)	創業塾を開催していたが、約1割が創業する成果。しかし、平成23年に事業仕分けで廃止になった。平成24年に道の協力で村おこし事業として創業塾に近いものを始めた。創業塾の再開を切望している。(旭川市)
	認定支援機関に認定されて、特に行動計画の事業承継について後継者塾を開催している。目標として、経営者自身で計画を作れるようにすること。(今治市)	

行動3 成長分野への参入に関する主な取組や課題・要望

1. 中小企業・小規模事業者の取組や課題・要望

行動計画項目	中小企業・小規模事業者の取組	中小企業・小規模事業者の抱えている課題や要望
新分野に進出し、地域に新たな雇用を創出する。	以前は100%下請で、設備まで親元から貸与してもらっていたが、最近では装置の購入等を自社で始め、その後新規装置の開発も始めた。(大分市)	お酒だけでなく食品分野へも進出しているが、食品はお酒と違い規制法の範囲が広く、それが障害となることが課題。(高知市)
	閉鎖的な領域なので認知度を上げるのに苦しい時間が長く続いた。コストの削減、事業の予算の確保など継続の案件であるが、2年前くらいから全国の病院からの反応も出てきており、患者・ユーザー1人1人の需要も見えているので、次のステージに向けて努力のしがいのあるところ。(旭川市)	生協など、衛生管理が非常に厳しいところだと、中々進出して行きにくい。他新事業を展開するに当たって、もっとスムーズに入っていけるような補助があればありがたい。(鹿児島市)
	当社は人材が少ないので、もっと知見を広げるために様々な勉強会に参加するようになり、現在は納豆を使ったサプリメント・健康補助食品の開発研究、また納豆菌で作った農業資材の開発・販売といった新事業を展開している。(鹿児島市)	サポイン程の高度な変更を必要としない試作等を対象とした支援制度があるとよい。(白石市)
	地域に根ざしたものの、ということで平成17年から鹿児島の特産品であるオクラを包装するネット資材の製造販売を始めた。現在はその技術をもっと横展開し、洗顔用のネット、今年は県の支援センターから地域資源活用補助金をもらいながら竹炭を練り込んだ高機能性のネットを開発している。(鹿児島市)	今後は、小規模事業者に限定するような支援を検討してほしい。(鳥取市)
		商業・サービス業にも設備投資に対する支援をしてほしい。(鳥取市)
		ものづくり補助金は、すぐに予算がなくなった。来年も継続してほしい。申請書作成の分かりやすいマニュアルがあれば、認定支援機関も支援しやすいのでは。(鳥取市)
		医療機器の認可が遅いので、短いといい。商機を逃してしまう。(旭川市)

		次の世代としては、現在の下請け構造からの脱却を図っていかないといけないと思っはいるが、物を作る事は出来てもやはり流通のノウハウはないので、支援してほしい。(豊橋市)
		何でも安いものがよいという世の中にならないよう、いいモノを造るところを支援するように補助金を使ってもらいたい。(白石市)
		「中小企業」というのは、非常に雑な括りだと思う。小規模・零細企業にも光を当て、使いやすい制度づくりをしてほしい。(室蘭市)
		労働環境等の厚生事業の業界は80%が零細企業。零細企業は、資本・人材・競争面がとても弱い。(豊橋市)
		サポインの対象技術に「分析技術」が入っていない。「分析技術」が発展すれば技術開発も進むと思うので、ぜひ対象にしてほしい。(和歌山市)
		サポインでエレクトロニクス分野も対象として欲しい。(高岡市)
地域経済の活力向上に貢献するため、地域内での連携・つながりを深めて、新たな取組を進める。	下請け構造からの脱却について、国からの補助金を受け、各事業者の強みの技術を持ち合って、連携して品質向上とコスト削減に取り組んでいる。(長野市)	大手電機メーカーのリストラ計画が傘下の企業や下請企業などに大変影響を与え、鳥取県東部の製造業者は疲弊している。下請製造業者として、地域のビジネスリーダーを失ってしまったが、地域の技術者と連携しながら、新事業の立ち上げを検討しているところ。(鳥取市)

新たな取引先となり得る大企業等とのつながりを深め、市場や顧客のニーズを把握する。	事業転換を図る際、大変苦勞したが、ITを導入することで状況が変わった。客が欲しい商品がいかにかに供給するかを第一に考え、今後も努力していきたい。(大分市)	関連産業の生産拠点が国内外に移転したり、内製化が進んでいることで仕事が激減している。(豊橋市)
	客のニーズが多様化し、ネット販売の普及や、車社会が進んだことで、地元以外からも客を呼び込めるようになった。一方で、ドラッグストアの進出、インターネットの台頭等で卸業は難しくなったため、登別の温泉などで対面販売等をスタートさせた。(室蘭市)	商品開発やテストマーケティングには多額の投資が必要で、キャッシュフローがついてこない。助成をお願いしたい。(遠野市)
	プラモデルのマーケットは縮小傾向。参加の皆様の頃と比べ、現在規模は10分の1程度。また、中国産が大部分。プラスチックの金型は日本産業の米であると言われながらも、今は殆ど壊滅した状態。そんな中で他の国に対抗していくため、技術開発等を行っている。マーケットの開拓においても、キャラクタービジネスへの参入、県庁とのコラボを行っている。ただのプラスチックの塊ではなく、立体情報物として売り出していきたい。(豊橋市)	

2. 支援機関の取組や課題・要望

行動計画項目	支援機関の取組	支援機関の抱えている課題や要望
地元の中小企業の成長を支援し、地域経済の活性化に貢献する。(再掲)	販売店の高齢化、大手量販店の増加により、卸としてより小売りに注力。商工会議所の協力を得て、楽天市場への出店を果たした。(高岡市)	
支援機関が連携し地域の中小企業・小規模事業者を支援する。(再掲)	成長分野への参入として、産学官金との連携により、自動車産業等への参入や取引拡大を支援している。また、6次産業化ファンドも設立した。(遠野市)	
支援機関自身の連携促進のスキルを磨く。		
認定支援機関の存在や各種支援策を地域の中小企業・小規模事業者を紹介し、活用を促す。(再掲)	中小企業が補助金や一括交付金を活用する際に、補助金の下りる前までの繋ぎ融資も県内金融機関として制度化し、支援している。(那覇市)	
地域において企業間連携を促進するためマッチングを行う。	事前に参加者リストを小冊子にして配布し、希望調査を取り、金庫職員がその場でマッチングをするシステム。(豊橋市)	
企業間連携に対し、経営戦略の策定・実施や販路開拓、大企業等との連携促進等、企業間連携特有の課題解決に資する支援を行う。		

行動4

海外への進出に関する主な取組や課題・要望

1. 中小企業・小規模事業者の取組や課題・要望

行動計画項目	中小企業・小規模事業者の取組	中小企業・小規模事業者の抱えている課題や要望
地域の雇用につながるような海外展開を進める。	昨年愛知県の援助を受け、国際航空宇宙展へ出展。初めてアメリカ、ブラジル、カナダ等と商談を行い、英語でもプレゼンを行った。(豊橋市)	海外展開は敷居が高い部分が多い。具体的には、JETROは海外の出展の申請書類は英語で提出して欲しいと言う。足下をみた、中小企業が海外展開しやすい環境作りをお願いしたい。(高岡市)
	日本でしか調達できない鋳物を使って歯車を作っていきたいと考えている。また、自分たちのグローバル化とは何かを考え、アメリカ資本の顧客の需要を取り込むようにした。(豊橋市)	通販サイトの外国語版を作っている。しかし、企業に薦めてもリスクが高いことと、言葉の壁があるため、小さな企業では海外進出は難しい。グループや地域に窓口を設けて商品を紹介してもいいのではないかと。(旭川市)
	中小零細が国際展開するには、採算の観点から、個社ではハードルが高いので、複数の業者で連携し、負担を軽減して、行っていきたい。(長野市)	大手等だと現地駐在員事務所などがおり、サポートが可能だが、小規模企業になると商社に頼らざるを得ない。もしこういう状況がクリアされれば、現地で同商材を展開することが可能になり、産業になり得ると考えている。(豊橋市)
	同社製品はジャパンプランドの認定を受け、「きしめん・でら・パスタ計画」といった取組で海外へも麺類の魅力を発信している。(豊橋市)	海外展開を進めたいが知財の分野が不安なので、商標登録の助成をお願いしたい。(高岡市)
		CマークやULマークといったマークを取得しないと、海外では売れない。これを取得するまでに費用が数百万円かかる。この負担が減るような仕組みを作してほしい。(和歌山市)
	近隣諸国では北海道は高い評価を受けている。国の力も借りて、輸出のできる小さな商社を設置して、北海道発アジア・世界行きを作っていきたい。(旭川市)	旭川は内陸でシンガポールの現地法人には神戸を経由して出している。旭川から神戸への物流費が高額。地域にまたがると、国際競争力を得るのは難しい。(旭川市)
	マレーシアに工場を出しているが、どうしても価格競争になる面がある。マレーシアでは人が少なくてネパール人を1/3雇っている。ASEANを主なターゲットに販路拡大中で、体制を強化している。日本は人口が減ることが予想されるため、ASEANがターゲットとしている。(旭川市)	海外へ出ると、一気に広がるため、日本と同じような感覚で行くと戸惑いを感じてしまう。出来れば、間に人が入るのが望ましく、中小企業向けの総合商社等があれば大変ありがたい。(鹿児島市)

地域経済の活力向上に貢献するため、海外市場も含め、域外に積極的に販路を拡大する。

今治しかないコンテンツを使って、今治に来てもらい、今治を潤したい。映画館の独自性を出すためにタレントに来てもらうなどしている。ニッチな分野なので、全国から客が来ている。今治のコンテンツを使って海外にも出ている。この前、タイで合同イベントをし、実績も残せた。できるだけ海外に向けて、観光という意味で来てもらえるようにしたい。(今治市)	海外だとタイムリーな交渉、予期せぬ商談に語学不足、知識不足で対応できない。プロの商社マンがブースを巡回してくれると助かる。ブースのどこかで日本人の現地対応できる人がいればよいのでは。(高岡市)
東京はもちろん、ミラノ、ドバイなどで展示会を行ったが、なかなか高級層との繋がりを得ることができない状況。そこでプロデューサーをむかえ、高級ホテルなどをターゲットにアプローチしている。(今治市)	市場や展示会にでると応用的、計画的にないことが多く、ジャパンブランドでは解決できないメニューがある。例えば、OEM生産、ロット数、為替という応用的なことも支援して欲しい。(高岡市)
海外展開については、ブラジルに特化しており、自分の得意分野に絞って力を入れている。今後は海外からの研修生を受け入れるなどして、海外との繋がりを模索していきたい。(遠野市)	海外展開に関し実際に苦労したことは、法務・労務・知財。化粧品は日本では薬事法に管轄されているが、フランスでは現地の法律の適用を受ける。労働条件等、労基法も異なる。流通等貿易実務の問題もあるが、法務・労務が喫緊の課題と感じている。(鹿児島市)
	海外のアンテナショップはなかなか販路が広がらない。専門家ではなく、民間の社長の方がノウハウがあるのでは。(高岡市)
	零細企業が海外に出るのが大変と実感している。出た後の営業活動が続かない。それぞれ地域に資源があるので、一社だけでなく地域の異業種も出せる制度がほしい。(旭川市)
	得意先が海外展開するにつれて、自分たちも海外に展開しているが、日本語のパンフレット・資料しかないことに気づき、決算報告書の翻訳を依頼すると40万円もかかった。(高岡市)

2. 支援機関の取組や課題・要望

行動計画項目	支援機関の取組	支援機関の抱えている課題や要望
地元の中小企業の成長を支援し、地域経済の活性化に貢献する。(再掲)	海外に出るのはリスクが高い。商工会議所のジャパンブランドに参加している。初めに商工会議所が費用を負担し、それが後で請求される仕組みなので、最初の費用の負担が軽くなっている。商工会議所が資料を作成してくれるので事務の負担が少ないのも良い。(旭川市)	
	平成17年からは鹿児島県の農水産品の中国輸出支援を、平成18年には極東ロシア、平成22年にはベトナム、チャイナ+1として、中小企業に幅広いビジネスチャンスを提供している。(鹿児島市)	
支援機関が連携し地域の中小企業・小規模事業者を支援する。(再掲)	食品・食材を中心に海外に対して売り込むために、3年前から商談会を実施し、毎年、実績を上げている。今後は、支援機関同士で、全県ベースで商談会を行う沖縄大交易会を予定している。沖縄の元気を取り込み、日本各地の特産品を沖縄のインフラであるハブ空港を利用し、アジアに販売をしようという目的。出店業者およびバイヤー数については、国内最大級の商談会となる予定であり、県内の4行が連携して行う。県内の中小、零細企業の皆様に対して、本土にはない沖縄独自の地域ブランドを発掘するため、その勉強会や研修会を行う予定。(那覇市)	
支援機関自身の海外展開支援のスキルを磨く。		
認定支援機関の存在や各種支援策を地域の中小企業・小規模事業者を紹介し、活用を促す。(再掲)		
地域において海外展開を行う企業を発掘する。	バイヤーを招聘した商談会をしている。海外の展示会への出展支援、海外のバイヤー・エージェン候補を探すことをしている。また、特定の企業に対し、担当の専門家をつけて、F/S調査から契約まで一気通貫で支援している。(今治市)	商談会に出展するまでが分かりにくいとの指摘がある。また、商談会後のフォローアップの相談も多い。出口のサポート充実について、意見を受けている。(今治市)

効果的実行

施策の効果的な実行に関する主な課題や要望

●支援情報の広報の強化

行動計画項目	施策の実行に関する課題や要望
ホームページやメールマガジン等に加え、ITポータルサイトを活用し、利用者の関心に応じた広報を実施する。	商売をしていく上では、物ではなくノウハウを発信していくのは大変。ミラサポのような専門家の交流だけでなく一般の人にどう発信していくか。(旭川市)
	産学官金の情報が集約されているポータルサイトがあるとありがたい。業種や活動地域等を登録することで、より使いやすくなると思う。(遠野市)
中小企業団体や認定支援機関と協力し、きめ細やかな情報提供を推進する。	国や県の助成事業が中小企業者には認知されていないことが多い。(高知市)
	認定支援機関の存在があまり知られていない。認定支援機関のより良い周知方法を考えてほしい。(旭川市)
	補助金も、メニューはたくさんあるが、本当に広く使われているのか疑問。制度を作っている以上、使ってもらえば地域が良くなるという前提のはず。知ろうと思った人しか知ることができず、使えない、というのは問題。(室蘭市)

●支援制度の使い勝手の向上

行動計画項目	施策の実行に関する課題や要望
審査に必要な項目を精査した上で、申請書類を更に削減・簡素化する。	補助金申請の、書類を簡素化してほしい。手軽に使えるようになれば、新しいチャレンジにも意欲が湧く。(和歌山市)
	事務や経費を考える時間がない。製品を作る時間しかないことを知ってほしい。行政の施策を受ける時間・体制がないのが現状。(旭川市)
	助成金を受ける際、申請書類の量が多く、手続きも難しいので、簡素化してほしい。(大分市)
	なかなか国・県の施策などの情報が届きにくい。身近に活用した人がいたら、参考になるので、そうした環境があればいい。(大津市)
	補助金が、やる気のある小規模事業者に行き届くように、要件の緩和等してほしい。(鳥取市)

公募に向けた準備期間を長くできるよう、原則として公募の事前予告を実施する。	補助金の申請期間が短すぎる。せめて認定支援機関には、事前に情報をもらえれば事業者にお伝えして相談ができる。(白石市)
	助成金の受付期間が短くて申請が間に合わないことも問題。(高知市)
ITポータルサイトにおける電子申請を順次、開始する。	

●経営支援体制の再構築(支援人材の量的充実・質の向上)

行動計画項目	施策の実行に関する課題や要望
税理士、弁護士等の士業に加え、企業OBやプロダクトデザイナー等、多様な専門家を発掘・育成し、中小企業・小規模事業者等への派遣を実施する。	若い女性が企業を経営する際、10年後～30年後を見据えた時に自分のライフプランを相談できる場所がない。(いわき市)
	目先何をすればいいかわからない企業がたくさんいる。初歩的なところからコーディネーターの育成を支援していただきたい。(豊橋市)
	海外展開について、実務に関しては素人なので知識も無く、苦労した。パッケージとして、人材派遣をいただき、契約や輸出等で提出する書類の作成等に関するアドバイスをいただけると大変ありがたい。(鹿児島市)
ITポータルサイトを活用した専門家とのマッチングを行う。	
地域の支援機関による連携した取組を促進(合同相談会の開催や支援情報の共有、合同研修の実施等)する。	当税理士会の2割近くが認定支援機関を取得。3割を目指しているが、取得後何をすればいいか、ということについて戸惑いがある。税理士の殆どが書類の作成をやったことがないのが実情。(豊橋市)
	市町村も創業支援に積極的。今後、市町村とも連携するにあたり、国の支援があればありがたい。(鳥取市)
	愛媛という土地柄もあってか、女性の支援者がいない。女性用品を扱うので、助成にしてもセンターへの入居にしてもなかなか理解してもらえなかった。女性でなければ分からないこともあるので、女性の支援者・アドバイザーを育成してほしい。(今治市)
	認定支援機関向けの研修について、地方では機会がまだ少ない。もっと研修の機会を増やしてほしい。(京丹後市)
	支援機関向けに経営革新についての研修を中小機構等で実施してほしい。(遠野市)

●その他

項目	施策の実行に関する課題や要望
支援施策の期間	商品開発などに時間を要するため、事業が1年で切れてしまつては、実績が出ない。長期的な支援をお願いしたい。(鳥取市)
	ネットワークの構築は容易なものではなく、5年から10年をかけて形成されるものが多いので、長期に渡って連携が形成されるという要素を施策にも盛り込んでほしい。(長野市)
補助金の交付時期	県から補助金を受けることになつてもお金をもらうのは事業が終わる1年後。この間の資金繰りが厳しいが、補助金をもらうという知事の印鑑だけでは、金融機関から融資をもらえないことが多い。(高知市)
	継続する助成がない。今年もらえても、来年ももらえる保証がない。1年で結果が出ないものもある。(室蘭市)
	いただいている補助金については大変ありがたいが、事業を3月までに完了しなければならないという制約が、大変厳しい。(鹿児島市)
支援体制	複数の認定支援機関によるチェックし、事業計画をブラッシュアップするような体制はどうか。特に優れた企業に重点的に支援するのはどうか。(旭川市)
	補助金をもらうには、事務局に人をつけて、しっかり機能させる必要がある。資金面、雇用面の支援をお願いしたい。(室蘭市)
	補助金の不採用となつた場合に足りなかった点のフィードバックがあると助かる。(室蘭市)
施策活用のための意識	補助金等の申請する書面などが簡素化された反面、書類を見て、事業計画があまりにも簡単すぎて、本当に事業が成り立つのかという不安もある。事業計画の大切さを分かっていない企業が多いので、しっかり指導していきたい。(那覇市)
	商工会や金融機関との交流で、日々施策の情報を得て活用している。施策はたくさんあるが、使う側のセンスが鍵だと思っている。(遠野市)

他の重要課題

震災対応に関する主な課題や要望

項目	震災対応に関する課題や要望
復興支援	見ず知らずの土地で新たに商売に取り組むのは難しいので、地域コミュニティ形成のための仮の町を早急に作っていただき、そのような場に商店や商店街なりを作っていくのが先決。(いわき市)
	県内の事業所の再開率は73%と、足踏み状態で、まちづくりへの動きが進んでいない。長期にわたって復興に取り組むことが必要。(遠野市)
風評被害	市の方では観光は7割まで回復していると言われているが、実感としては4割も戻っていない。そんな中、消費税や電気代が上がるのは厳しい状況。(いわき市)
	1年経ってから観光客が戻ってきているが、被災地支援という形で来られている方がほとんどで本来の意味での観光客は戻っていない。(白石市)
	販売奨励品ということで食品を東京都に納めた場合、何パーセントか還元するというすばらしい制度があった。放射能検査や手続きをしているのに、福島県ということで避けられている。食品を買ってもらえる方策をしていただきたい。(いわき市)
震災特需	震災後は、被災地域での需要や復興支援の想いによる取引開始等があり売上が一時的に伸びていたが、この特需が終わってみると、震災前の売上にまだ戻れていない。(白石市)
グループ補助金	地震により、工場は建物が半壊し今もそのままの状況で、機械も壊れた。グループ補助金を検討していたが、減価償却が済む前に将来立て替えることができないと言われたため利用を諦めた。(白石市)

他の重要課題

消費税転嫁対策に関する主な課題や要望

項目	消費税転嫁対策に関する課題や要望
消費税転嫁対策	消費税増税について、スーパー（小売り）は値段を上げられないので、消費税増税が8%になった場合の3%増税分は製造者が負担せざるを得ない状況になる。（白石市）
	顧客の大半は個人であり、財布の紐は固い。景気のいい話はテレビや新聞だけなのだろうか、というのが実感。そんな状況の中、消費増税が一番の懸念。（豊橋市）
	消費税の転嫁対策は、特に力を入れていかないと、事業環境の悪化につながる。（今治市）
	周りでは、景気回復を実感している人は少なく、むしろ消費税引き上げで衣食住を守ることを優先する人が増えるため、美容業は大変。（室蘭市）